

 扶桑薬品工業株式会社
〒541-0045 大阪市中央区道修町1丁目7番10号



ホームページはこちら



Corporate Profile

FUSO Pharmaceutical Industries, Ltd.

会社案内

いのち いのち
生命支えて、生命育む



いのち
生命支えて

透析患者さんの
命を支える

1964年に日本初の透析剤「人工腎臓灌流原液”フソー”」を発売してから約60年、私たちは透析領域のスペシャリティファーマとして、透析剤をはじめとする透析関連製品で透析患者さんの命を支えています。

輸液で医療を
支える

命の水をつくり続けて80年余り、現在では小型から大型まで幅広い輸液・注射剤のラインナップをそろえ、医療を支える基礎的な医薬品を製造しています。

安定供給で
患者さんの命を
支える

全国に12ヶ所の物流拠点を分散配置し、東日本と西日本に製造拠点を設けることで自然災害等による供給途絶のリスクを軽減し、いかなる状況・場面でも供給できるように努めています。

いのち
生命育む

生まれ来る命を育む

「生命育む」という想いのもと2000年に国内の医薬品メーカーとして初の胚培養液「HFF99」を発売し、不妊治療・生殖補助医療（ART）分野に進出しました。現在では、生殖補助医療の一連の流れで用いるさまざまな製品を取り扱っています。私たちは、今まで培った経験に新たな技術を導入し、生まれ来る命を育むための製品を開発してまいります。



患者さんに寄り添った製品の開発と安定供給の使命を果たし、「生命支えて、生命育む」製品を皆さんに届けてまいります。



扶桑薬品工業の

歩み

1937
株式会社大和商会設立
1943
医薬品製造業に進出
1949
現社名へ変更
1957
城東工場竣工



1937~

黎明期



1978
人工腎臓用透析液キンダリー液3号
開発上市
1979
城東第二注射剤工場・大東工場竣工
1981
研究開発センター竣工
キンダリー透析剤1号シリーズ開発上市
1983
大阪証券取引所市場第一部へ上場
1985
岡山工場竣工

1975~

生産拠点の拡大



1989~

東証一部上場

1989
東京証券取引所市場第一部へ上場
キンダリー透析剤2号シリーズ開発上市
1993
キンダリー透析剤3号シリーズ開発上市
1994
扶桑道修町ビル竣工
1995
茨城工場竣工



2000~

粉末型透析剤へ

2000
胚培養液「HFF99」を開発上市し、不妊治療・生殖補助医療分野に進出
2001
扶桑日本橋ビル取得
2011
キンダリー透析剤4号シリーズ開発上市
2016
茨城工場第二製剤棟竣工
外用局所麻酔薬エムラクリームのコ・プロモーション契約締結
2017
体外受精関連製品「HIGROWシリーズ」を開発上市



2019~

プライム市場移行

2020
腎性貧血治療薬バフセオ錠のコ・プロモーション契約を締結
キンダリー透析剤5号シリーズ開発上市
2022
プライム市場へ移行
2024
茨城工場第二製剤棟に粉末型透析剤の新ラインを増設・稼働

1960~

透析液開発

1963
痔疾治療剤ヘモリンド舌下錠発売
1964
人工腎臓灌流原液”フソー”開発上市
1968
城東第一注射剤工場竣工
1969
前立腺疾患治療剤セルニルトン錠発売
人工腎臓用透析液キンダリー液1号・2号開発上市
1970
大阪証券取引所市場第二部へ上場





研究・開発

● 研究開発にかける想い

透析剤、腎臓や泌尿器領域を中心とした、いまだに治療方法が確立されていない疾患・治療満足度の低い疾患（アンメットメディカルニーズ）に対する医薬品、そして不妊治療関連製品の創製のための研究開発に取り組んでいます。トップシェアを誇る透析剤や生命維持の基本となる輸液・注射剤を軸として、長年培ってきた技術を基に「生命（いのち）支えて、生命（いのち）育む」革新的な医薬品の創薬につなげていきます。さらに研究開発力の強化に向けて、社内のみならず国内外の企業やアカデミアとのコラボレーション、オープンイノベーションの活用を進めています。

● 重点領域

腎・泌尿器・透析

1964年に日本初の透析剤の販売を開始した当社は、透析療法の発展とともに、透析剤のラインナップの拡充に取り組んできました。透析剤のバイオニアとして、今後も透析治療を受ける患者さんに寄り添い、新たな視点での透析剤の研究開発を進めていきます。



輸液・注射剤

1943年にブドウ糖注射液などを発売して以降、現在では、小型から大型まで幅広い輸液・注射剤のラインナップがあり、医療を支える基礎的な医薬品を製造しています。より使いやすく、より安全性の高い容器を目指して開発を行っています。



不妊治療・生殖補助医療（ART）

2000年に国内の医薬品メーカーとして初の胚培養液を発売し、不妊治療・生殖補助医療（ART）分野に進出した当社は、現在、生殖補助医療の一連の流れで用いる製品を取り扱っています。不妊に悩むカップル、ひいては日本が直面している重要な問題である少子化対策への貢献を目指して、今まで培った経験に新たな技術を導入し、研究開発を進めていきます。



生産・供給

安定供給で患者さんの命を支える

透析治療は、定期的かつ持続的な治療が必要です。また、輸液・注射剤はあらゆる治療で用いられており、これらの医薬品は医療の現場に欠かせない医薬品であるため、安定的に患者さんのもとに届けることが私たちの社会的使命です。



安定供給のためのネットワーク

主力工場を東西に振り分け、全国4ヶ所の製造拠点と12ヶ所の物流拠点を配置することで、自然災害等によるリスクを軽減し、いかなる状況・場面でも製品を供給できるように努めています。

製造拠点
●
物流拠点

- 製造拠点
- 物流拠点



内用剤の製造拠点

大東工場



輸液・注射剤の西日本における製造拠点

城東工場

茨城工場



透析剤と輸液・注射剤の東日本における製造拠点

岡山工場



透析剤と輸液・注射剤の西日本における製造拠点





品質・安全性

● 優れた品質と高い安全性を確保するために

医薬品は生命に直結する製品であるため、患者さんや医療関係者の方々へ高品質の製品を安定的にお届けできるよう、国が定めた厳しい基準に基づいて品質を管理し、安全性を確保しています。



優れた品質のために

品質管理部門と品質保証部門の両者が連携し、患者さんや医療関係者の方々に安心してご使用いただける医薬品をお届けできるよう努めています。



品質管理(Quality Control:QC)部門

製品の品質が常に一定に保たれているかを確認する大切な仕事を担っています。原料の検査から製造過程、そして最終製品の検査まで、一連の工程において国で定められた厳しい基準に沿って厳密なチェックを行い、安全で有効な医薬品を提供することを目指しています。

品質保証(Quality Assurance:QA)部門

医薬品の品質、有効性及び安全性を確保するために、医薬品の市場への出荷の管理、医薬品製造所の適正な製造管理及び品質管理を確保するための管理監督業務、医療機関等からの品質情報に対する処理等の業務を行っています。製造から販売までの全工程において、国が定める基準や規制を遵守し、患者さんに提供される医薬品が常に一定の品質基準を満たしていることを保証するための重要な役割を果たしています。

高い安全性確保のために

医薬品の安全性情報を収集、分析し、副作用等のリスクを適切に評価し、副作用の発生や重篤化の防止のために新たに明らかになった副作用や使用上の注意点を医療の現場にフィードバックすることで、患者さんや医療関係者の皆さまが安心して医薬品をご使用できるよう努めています。





医薬情報提供

● 安心してご使用いただくために

医薬品が本来の有効性を発揮し、その安全性を確保するためには、正しい情報に基づき、適正にご使用いただく必要があります。私たちは、さまざまサポート体制を活用して、患者さんや医療関係者の方々が安心してご使用いただけるよう、迅速な情報提供および収集に努めています。



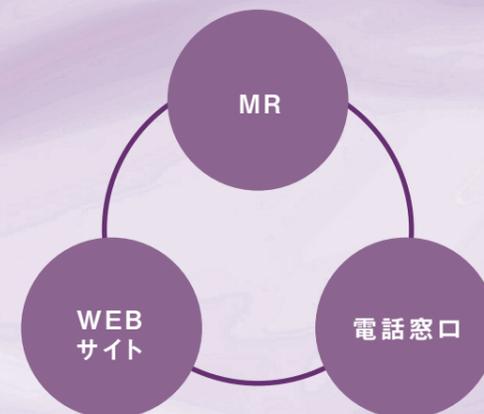
全国10支店による タイムリーな情報提供体制

透析剤は、定期的かつ永続的な治療を必要とする血液透析で使用され、輸液・注射剤は、医療を支えるもっとも基礎的な医薬品です。このような医薬品を多く取り扱う当社は、全国10支店、約300名のMRにより、全国の病院へ迅速な情報提供活動を行っています。患者さんへより良い医薬品をお届けするため、医療関係者の方々への誠実な情報提供活動に取り組んでいます。



サポート体制

私たちは、医療関係者の方々や患者さんがより安全に安心して医薬品をご使用いただけるよう、MR、電話窓口、WEBサイトの3つのサポート体制で医薬品の適正使用に関する情報提供を行っています。



医薬品の品質・有効性・安全性等に関する情報を提供・収集し、さらに、医療関係者の方々からいただいた声を各担当部署へフィードバックすることで、より安全に配慮し、さらなる品質の向上に努める体制を整えています。



医療関係者の方々からのお問い合わせに迅速に対応するため、研究開発センター内にお問い合わせ窓口を設置し、製品の使用方法や使用時の注意点等に関するお問い合わせを受けています。



医療関係者向け情報サイトでは、製品に関する最新情報や医療関係者の方々をサポートするための医薬情報誌等を掲載しています。また、一般の方や患者さん向けに血液透析・輸液・慢性前立腺炎・不妊に関する情報を掲載しています。



Sustainability

サステナビリティ

サステナブルな社会の実現に向けて

扶桑薬品工業は、「生命(いのち)支えて、生命(いのち)育む」という想いのもと、「生命(いのち)を支える」人工腎臓用透析液等の基礎的な医薬品、「生命(いのち)を育む」不妊治療関連製品をつくっています。私たちはこれからも、すべての患者さんのために、いのちを支える医薬品をつくることで人々の健康に貢献し続けるとともに、医療に不可欠な医薬品の安定供給という社会的使命を果たす「なくてはならない会社」として、サステナブルな社会の実現に向けた取り組みを進めていきます。

扶桑薬品工業の社会貢献活動

チャリティウォーク

コングラント株式会社を運営パートナーとしてチャリティウォーク【FUSO Walk】を実施しています。チャリティウォークは、期間中に従業員を中心とする参加者が歩いた歩数に応じて、当社から支援団体へ寄付を行う取り組みです。



運営パートナー：コングラント株式会社

開発途上国の医療サービス向上を目指した研修

2017年より、(独)国際協力機構(JICA)の課題別研修の受託医療機関である(医)雪の聖母会聖マリア病院へ当社から国際保健医療協力の経験を持つ講師を毎年派遣し、開発途上国の医療サービス向上を目指した現地の医療関係者向けの研修コースを支援しています。



屋上緑化ワインプロジェクト

「道修町まちづくり協議会」の屋上緑化ワインプロジェクトに参画し、扶桑道修町ビル(大阪市中央区)の屋上に、ブドウ栽培による屋上緑化活動に取り組んでいます。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

扶桑薬品工業株式会社はSDGs実現に向けた取り組みを実施しています。

	方針	活動	主に関連するSDGs
環境	<ul style="list-style-type: none"> ●研究開発・原資材の調達・製造・配送・使用・廃棄に至る全ての事業活動において、環境負荷の低減に努める。 ●各ステークホルダーとの連携のもと、環境負荷低減や環境保全に努める。 ●社内での教育・研修を通じて環境意識の向上を図るとともに、地球環境保全のための活動に積極的に取り組む。 ●「気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)」の提言に賛同を表明し、TCFD4つの開示項目を充実すべく、検討を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ●重油から天然ガスへ環境配慮目的の燃料転換を行い、CO2排出量を約30%削減しています。 ●製品パッケージに環境配慮型の素材を導入することによって、包装用のプラスチックの使用量や廃棄プラスチックなどの削減を検討しています。 ●茨城工場第二製剤棟の2号ラインは、安定的かつ効率的な製造と省エネルギーを実現させ、サステナビリティの観点に配慮した設計となっており、カーボンニュートラルに向けた投資促進税制認定を受けています。 	
社会	<p>人的資本</p> <ul style="list-style-type: none"> ●人材育成 ●社内環境整備 <p>社会貢献</p> <ul style="list-style-type: none"> ●社会貢献活動を通じた、社会との共生の推進 ●環境保全の取り組みによる、持続可能な社会づくりへの貢献 ●従業員の社会貢献活動への参加の推奨・支援 	<p>人的資本</p> <ul style="list-style-type: none"> ●部門・年次・職位・職能で求められる能力の習得を目的とし、各種研修制度を実施 ●ジョブローテーションを取り入れたキャリアパスの設定 ●多様な人材、優秀な人材確保のためのキャリア採用 ●福利厚生を充実し、働きやすい職場づくりを推進 <p>社会貢献</p> <ul style="list-style-type: none"> ●チャリティウォークの実施 ●開発途上国の医療サービス向上を目指した研修 ●屋上緑化ワインプロジェクト ●大阪府・大阪市の社会福祉事業への寄付 ●大阪城公園等への木の寄贈 ●地域の方を招いた盆踊りイベントの開催 ●災害復興支援 	
ガバナンス	<p>扶桑薬品工業は、経営の根幹に倫理を据えており、透明性を担保して説明責任を果たすとともに、適切な経営リスク管理を行うことで、企業価値の向上に努めています。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●コーポレートガバナンスの充実 ●コンプライアンス活動の推進 ●透明性の推進 ●リスクマネジメント 	

ごあいさつ

扶桑薬品工業は、生命関連産業に携わらせていただいている使命と責任の重さを十分に認識し、その喜びを嘯みしめながら、治療上必要不可欠な医療用医薬品を1943年よりつくり続けてまいりました。「生命(いのち)支えて、生命(いのち)育む」という想いのもと、人工腎臓用透析液や不妊治療関連製品などの開発に取り組んでおります。

ブドウの社章が物語るように、ブドウ糖注射液を製薬業のスタートとした当社の今日の代表的製品は、人工腎臓用透析液「キンダリー透析剤」です。わが国に透析療法が導入された1950年代後半、いち早く透析液の開発に着手し、1964年、日本で初めて「人工腎臓灌流原液」を上市しました。透析医学界の先生方のご尽力によって透析療法は驚異的な発展を遂げ、今や全国35万人もの患者さんが透析療法によって命と日常をつないでられます。当社は黎明期から透析療法の普及発展の一端を担う透析液のトップメーカーとして、その誇りと責任感を胸に日々努力を続けております。

そして、透析剤をはじめ、輸液や注射剤など、医療に欠かすことができない基礎的医薬品を多数製造販売していることから、安定供給は社会的使命であります。製品特性を鑑み、大阪、岡山、茨城に量産工場を配して、全国における安定供給体制に万全を期しております。

さらに2000年からは不妊治療関連製品の開発にも取り組んでおり、2017年、体外受精関連製品「HiGROWシリーズ」の発売を機に、不妊治療・生殖補助医療(ART)分野にも本格進出いたしました。

当社は、革新的な医薬品を一日でも早く患者さんに届けるため、研究開発センターを中心に国内外の大学や研究機関、そして創薬ベンチャー企業との強力な連携により、患者さんのアンメットメディカルニーズに対応した、より良き医薬品の創出に日夜努力を重ねております。

現下の医薬品業界の環境はことのほか厳しいものの、扶桑薬品工業はこれからも生命関連産業の一員として、真摯にその本分を尽くしてまいります。

経営理念

1. 当社はその事業と規模を利用して社会に貢献し、自らも幸福と生甲斐を得ようとする社会人が結集した運命共有集団である。
2. 会社の存立も個人の生活も、社会の恩恵なしには維持できない。とくに人の健康と生命に密接に関与する医薬をつくる企業には、それにふさわしい倫理が求められ、これを踏みはずさないものだけが繁栄を持続し得るのである。
3. 当社は、製薬企業の本分を尽くすとともに、社内の平安を旨とし、挙社一体の企業努力により社会に貢献、また全従事者の負託にこたえんとするものである。

社是

- ・社会寄与につながる経営方針
- ・挙社一体の企業努力
- ・先憂後楽、深謀果断
- ・患不均、以和為貴(均しからざるを憂い、和をもって貴しとなす)
- ・充実し生甲斐のある生活の確保

コーポレートシンボル



モチーフ

社章のぶどうは、当社創業以来ゆかりの深いブドウ糖を象徴するとともに、構成員の円満な人格、玲ろう純真な品性と強固な団結をシンボライズしております。

カラー

ぶどうの象徴とも言える紫色は、古代から高貴な色として尊ばれており、大切にされてきました。当社は、高貴から転じて「信頼」や「安定」をイメージさせるこの紫色をコーポレートカラーとして使用しています。

代表取締役社長

戸田 幹雄



会社概要

商号	扶桑薬品工業株式会社 (Fuso Pharmaceutical Industries, Ltd.)
本社	〒541-0045 大阪市中央区道修町1丁目7番10号
設立	昭和12年3月25日 (1937年)
代表	戸田 幹雄
資本金	107億58百万円
決算月	3月
取引銀行	三井住友銀行、三井住友信託銀行、三菱UFJ銀行、りそな銀行
上場取引所	東証プライム市場 (証券コード 4538)
従業員数	1,307名 (2024年3月31日現在)
主な事業内容	医薬品の研究開発、製造、販売

事業所

本社・事務所

本社	〒541-0045 大阪市中央区道修町1丁目7番10号	TEL 06-6203-5671	FAX 06-6231-6886
本社事務所	〒536-8523 大阪市城東区森之宮2丁目3番11号	TEL 06-6969-1131	FAX 06-6969-2341
東京事務所	〒103-0023 東京都中央区日本橋本町2丁目4番5号 扶桑日本橋ビル	TEL 03-5203-7101	FAX 03-5203-7088

研究所

研究開発センター	〒536-8523 大阪市城東区森之宮2丁目3番30号	TEL 06-6969-3131	FAX 06-6964-2706
----------	-----------------------------	------------------	------------------

工場

茨城工場	〒319-1556 茨城県北茨城市中郷町日棚1471番25	TEL 0293-43-3411	FAX 0293-43-3214
城東工場	〒536-8523 大阪市城東区森之宮2丁目3番11号	TEL 06-6969-1131	FAX 06-6969-0788
大東工場	〒574-0021 大阪府大東市平野屋新町4番1号	TEL 072-873-1661	FAX 072-871-5891
岡山工場	〒719-0301 岡山県浅口郡里庄町里見9033番地	TEL 0865-64-4111	FAX 0865-64-4114

配送センター

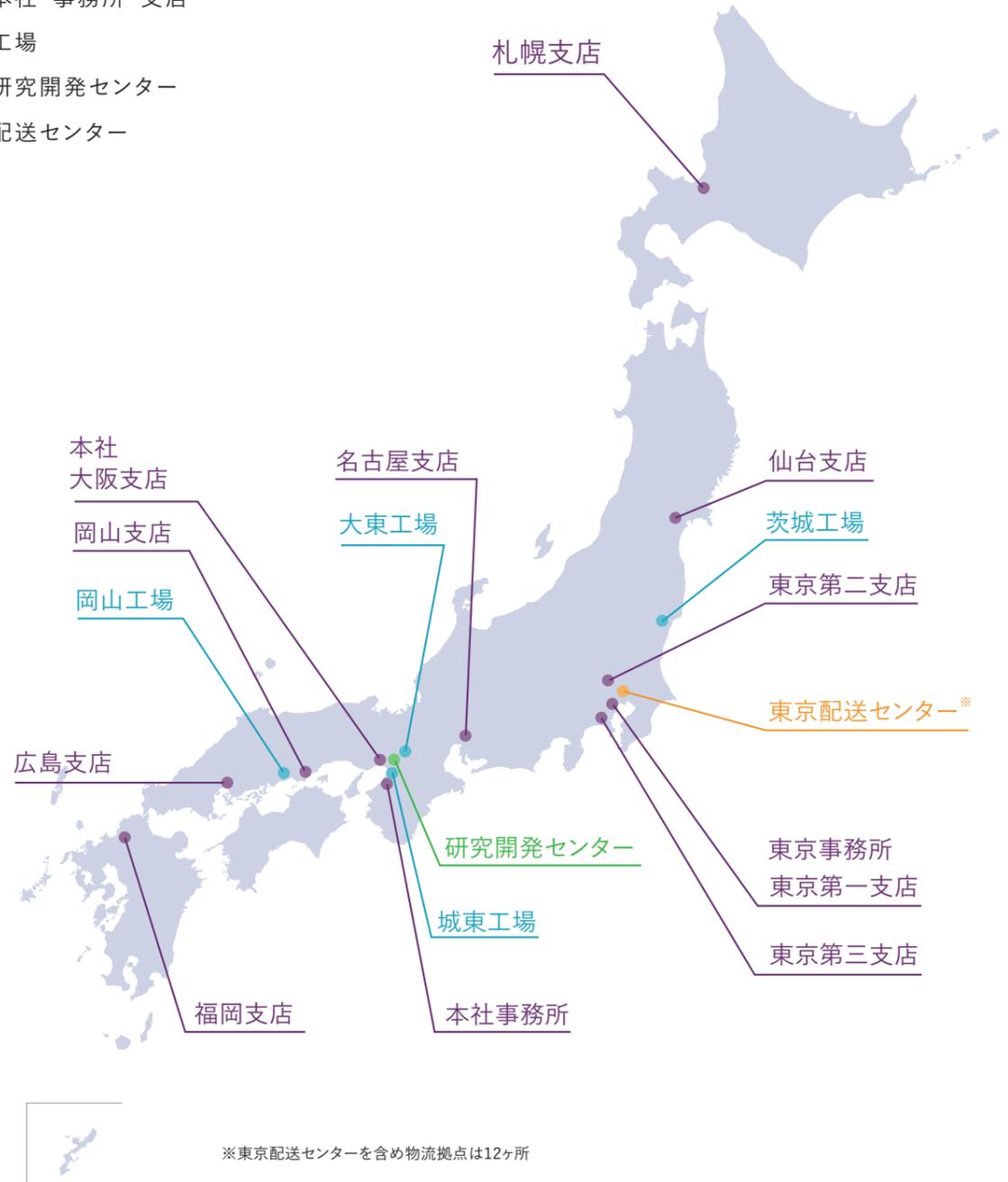
東京配送センター	〒336-0038 さいたま市南区関1丁目20番14号	TEL 048-710-7295	FAX 048-710-7299
----------	-----------------------------	------------------	------------------

支店

札幌支店	〒003-0006 札幌市白石区東札幌六条1丁目2番30号 札幌三信物流ビル4F	TEL 011-814-3811	FAX 011-814-3815
仙台支店	〒980-0013 仙台市青葉区花京院2丁目1番65号 いちご花京院ビル12F	TEL 022-221-2656	FAX 022-262-2600
東京第一支店	〒103-0023 東京都中央区日本橋本町2丁目4番5号 扶桑日本橋ビル	TEL 03-5203-7101	FAX 03-5203-7088
東京第二支店	〒330-0845 さいたま市大宮区仲町1丁目104番 大宮仲町AKビル5F	TEL 048-644-9202	FAX 048-644-2143
東京第三支店	〒222-0033 横浜市港北区新横浜3丁目19番地1 LIVMOライジングビル4F	TEL 045-474-0386	FAX 045-474-0388
名古屋支店	〒460-0002 名古屋市中区丸の内3丁目17番13号 いちご丸の内ビル3F	TEL 052-962-5001	FAX 052-971-6592
大阪支店	〒541-0045 大阪市中央区道修町1丁目7番10号 扶桑道修町ビル1F	TEL 06-6203-5671	FAX 06-6231-6886
岡山支店	〒700-0834 岡山市北区天瀬南町9番12号 戸田ビル2F	TEL 086-225-4505	FAX 086-225-2329
広島支店	〒730-0016 広島市中区幟町3番59号	TEL 082-228-6591	FAX 082-228-6594
福岡支店	〒812-0025 福岡市博多区店屋町8番17号 いちご博多明治通りビル6F	TEL 092-271-0501	FAX 092-291-6739

全国ネットワーク

- 本社・事務所・支店
- 工場
- 研究開発センター
- 配送センター



(2025年1月時点)